

# 新型コロナウイルス禍における大学スポーツが 受けた影響と城西大学の対応について

佐々木 達 也

## 要 旨

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、緊急事態宣言が発出され大学は休業要請の対象となり、当然のことながら課外活動（部活動）もその影響を大きく受けた。

一つ目は、UNIVASの調査データから、大学スポーツが受けた影響を段階的に明らかにした。二つ目は、大学スポーツ公式戦状況を、主要スポーツを抜粋して明らかにした。三つめは、城西大学の新型コロナウイルス対策について明らかにした。

大学スポーツが受けた影響は計り知れなく、城西大学も同様に大きな影響を受けた。しかしながら、他大学と比較して部活動停止期間を最小限に抑えることができた等、適切な対応ができたこともあり、主要部活動の好成績につながった。課題としては、他校との対外試合時対応にあり、今後の感染予防徹底の継続が重要である。

キーワード：新型コロナウイルス、大学スポーツ、城西大学

## 1. 緒 言

2019年12月に中国武漢で確認された新型コロナウイルスは、世界中に感染拡大をし、2020年3月にWHO（世界保健機関）がパンデミック宣言して、世界中が大混乱に陥った。

我が国においては、2020年1月に感染者が確認された後、感染拡大により、2月に安倍晋三首相（当時）が、全国全ての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校について、3月2日から春休みまで臨時休業を行うよう要請した。

2020年4月7日、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県に、緊急事態宣言が発出された。4月16日には緊急事態宣言が全国に拡大された。その後、緊急事態宣言は、5月14日に39県で解除となり、5月25日には全47都道府県で解除となった。

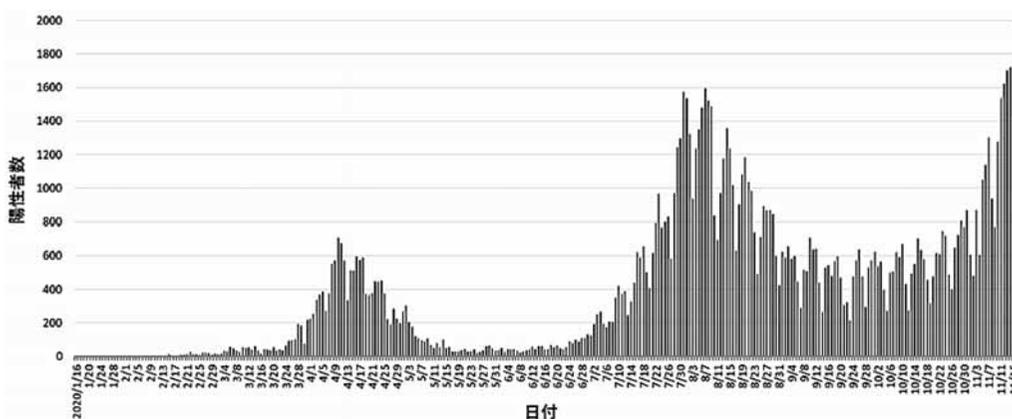


図1 新型コロナウイルス全国PCR検査陽性者数

資料：厚生労働省オープンデータ陽性者数より筆者作成

この緊急事態宣言の間、大学も休業要請の対象となり、授業と課外活動に影響を及んだ。本研究では、この経験したことのない危機をどのような対応を施して乗り越えていくべきかを本事例をまとめることにより、今後もウィルスや自然災害、国際紛争等で大学の休業要請時の対応へのベンチマークとしたい。

## 2. 研究背景と目的

筆者は、2019年度より城西大学体育会サッカー部部長、また、2020年度より城西大学スポーツ振興センター所長を拝命し、部活動を安全に運営することを求められている。また、城西大学は2020年4月より、一般社団法人大学スポーツ協会（以下UNIVAS）に加盟した。UNIVASは大学スポーツの振興のために2019年に設立された組織であり、2020年12月現在で全国221大学が加盟している。

この研究において、新型コロナウイルス感染拡大の中で、全国の大学はどのような対応を取っていたのかをUNIVASのデータから明らかにすること、そして城西大学はどのようなアクションを起こしてコロナ禍を乗り越えてきたのかを整理し課題を抽出、詳査することは、今後同様の感染症が発生した際に有効であり、一助となるものとする。

## 3. 先行研究

運動部活動の在り方において中沢（2020）が、「新型コロナウイルスと選抜高校野球大会：運

動部活動が応援され続けるために」の中で、「一斉休校措置で授業・教育課程・学校教育全般が停止している中で、自主的な課外活動に過ぎない部活動が続行することに疑義を呈した。」と述べている。また、「高野連はプロスポーツの動向から知見を得るために、プロ野球とサッカーのJリーグが設置した新型コロナウイルス対策連絡会議にオブザーバー参加すると主張した。しかし、プロは大人による経済活動で、その中止にあたっては営業保障や損害賠償が争点になり、まったく別物である。高校野球のあり方は、まずもって学校教育の枠組みの中で判断されるべきである。」と述べている。このことから、大学スポーツも高校野球同様に学校教育の枠組みであり、自主的な課外活動であると言える。

山本（2009）は、「スポーツは大学を中心とした学校教育に支えられてきたが、今日では大学がスポーツの支えを必要としている。それは、社会貢献の一翼を担い、大学の知名度アップのためにアスリートが宣伝・広告塔となり、学生確保のためにスポーツ系の学部・学科を設置し、そして、運動部（競技志向型）の強化を行い、スポーツ推薦人試制度、スポーツ特待生制度や奨学金制度の導入、さらには、それに伴うスポーツ施設を充実させるなど、多岐にわたる様相を見せている。」と述べている。

また、山本（2009）は、「歴史的変遷の中で大学がスポーツの発展に寄与してきたが、今日ではスポーツが大学の存続に影響を与えるようになったことである。それは、大学の経営戦略の一手段としてスポーツを用いることが、大学のみならず地域社会においても有効かつ有益ということである。そのことは、スポーツを通じた地域の活性化やスポーツ政策の充実化により大学の経営を安定させようとする大学が増えていることから伺える。そして、大学のスポーツを通じた社会貢献事業や学生確保といった政策は現代社会のニーズに即しているのだろう。」と述べている。現実として、大学経営にスポーツの存在は重要であることは誰も異論のないことであろう。

しかし一方では、2018年5月に起きた、「日本大学アメリカンフットボール部日大フェニックス反則タックル問題」、2020年10月に明らかになった、「東海大学硬式野球部員による大麻使用事件」等の運動部における不祥事により大学の名誉を傷つける出来事が昨今起きている。また、2020年8月松江市の立正大浜南高校サッカー部寮で90人以上の大規模集団感染、同年11月中央大学男子バレー部寮で8人集団感染を起し、世間からバッシングを受けたことも記憶に新しい。山本（2009）の先行研究からは、大学スポーツは経営の一翼を担うが、不祥事を起こすと世間からバッシングを受ける「諸刃の剣」であることも垣間見え、理解できる。そのため、運動部活動運営の重要性を認識することができた。

杉田（2016）は、「大学スポーツは、後発の新興大学のブランド構築の重要な手段として取り入れられることによって競技としての高度化が進んだ。指導者も、大学の教員やOB主体ではなく、高い専門性を持った人材を教員として招聘したり、あるいは監督者として雇用するなどして

取り込む動きが進んだ。」と述べている。指導者への高い専門性を持った教員の登用や部活動の監督として職員として雇用することは、多くの大学が行っている。また、「1990年代ごろから始まったこういった流れの中で、一時期、いわゆる不祥事も多発した。涉外対策として、マスコミを含めた外部ステークホルダーとの接し方についての教育を行うなど、実業団やプロチームにも似たマネジメントも実行されている。大学にとっての広告塔という意味合いでこういった運動部を見た場合、その費用対効果については、一概に評価することはできないが、知名度の上昇によって、認知度を上げるということだけでなく、もはや、スポーツ選手を何人獲得するかが、入学定員を確保することに影響するまでに至っている。このような全体の流れからすると、大学の経営環境の変化がはからずも大学スポーツの高度化、競技化を促進した面があるとみることができ、卒業後のプロや実業団、クラブのいわゆるトップクラスの競技への選手の提供元としての位置を強めていると考えることができるのである。」と述べている。杉田(2016)は、「大学スポーツはブランド構築の重要な手段であり、広告塔の意味合いをもつことで認知度を上げることだけでなく、入学定員確保に影響するまでに至る」。とも述べている。これらのことから、大学スポーツが大学経営に与える影響が大きいことが理解できる。

また、新型コロナウイルス感染拡大の中で興味深い研究がある。Jukic 他(2020)は、「トレーニングを中断することによる障害について、トレーニング中断期間が、2~4週間を超えて続く場合は、退行的変化はより深刻になる。しかしながら、外出自粛は、ストレスから完全に回復する可能性を持っており、プラスの効果もある。」と述べている。活動停止期間が競技結果へ与える影響は当然ある中で、新型コロナウイルス感染拡大の中で記された論文として興味深く、活動停止期間短縮が良い結果をもたらすのではないかと推測できる。

## 4. 研究方法

### 4.1. 大学における新型コロナウイルス感染防止対応の現状調査

UNIVAS 加盟の4年制大学の公式ホームページにおける掲載情報を UNIVAS が調査・集計した内容を、UNIVAS の許可を得て、筆者がまとめてデータ作成をした。

#### 【UNIVAS 調査の概要】

調査方法：各大学の公式ホームページに公表されている情報を目視で判定、内容を集計。

情報の掲載が判別できない場合や、情報の掲載が無き場合は未判明とした。

調査日：2020年4月20日、6月2日、7月1日、9月16日時点で調査を実施。

調査対象：UNIVAS 加盟会員のうち、4年制大学の202校。

調査内容：UNIVAS 調査から以下の 2 点を使用した。

- ① 前期授業への対応内容：遠隔授業や対面授業等授業形式の変更表明について。
- ② 課外活動への対応：禁止や中止の継続、もしくは段階的許可などの意向表明について。

#### 4.2. 大学主要スポーツ大会開催状況

野球，サッカー，バスケットボール，バレーボール，陸上，駅伝の大会開催状況を，各団体のホームページに掲載されている情報を集計した。

#### 4.3. 城西大学の課外活動向けのアクション

公式ホームページに掲載をした「新型コロナウイルスに関する注意喚起，お願い，お知らせ」情報を確認して，城西大学が発令したアクションを集計した。

### 5. 研究結果

#### 5.1. 大学における新型コロナウイルス感染防止対応の現状調査

UNIVAS が加盟 202 大学（4 年制）公式ホームページの掲載情報を調査，集計した。緊急事態宣言発出後の 4 月 20 日，研究事態宣言解除直後の 6 月 2 日，第一波が終わり，新規感染者数が少なくなった 7 月 1 日，後期授業開始前後の 9 月 16 日の 4 回調査をしたデータを比較した。

##### 5.1.1. 前期授業の対応について

緊急事態宣言中の 4 月 20 日時点では，59%の大学が原則遠隔授業を実施しており，対面授業を実施していた大学は 40%であったことがわかる。

緊急事態宣言が解除された 6 月 2 日になると，原則遠隔授業が 12 校減り 53%となり，対面授業再開が 11 校増えて 45%となった。

第一波が終わり，新規感染者が少なくなった 7 月 1 日時点になると，段階的対面授業が，14%となり対面授業再開と合わせると 52%が対面授業に踏み切り，原則遠隔授業 46%を超えて対面授業を再開した大学が多くなったことが理解できる。

後期授業開始時期の 9 月 16 日時点のデータでは，161 校の 90%の大学が対面授業を再開している。

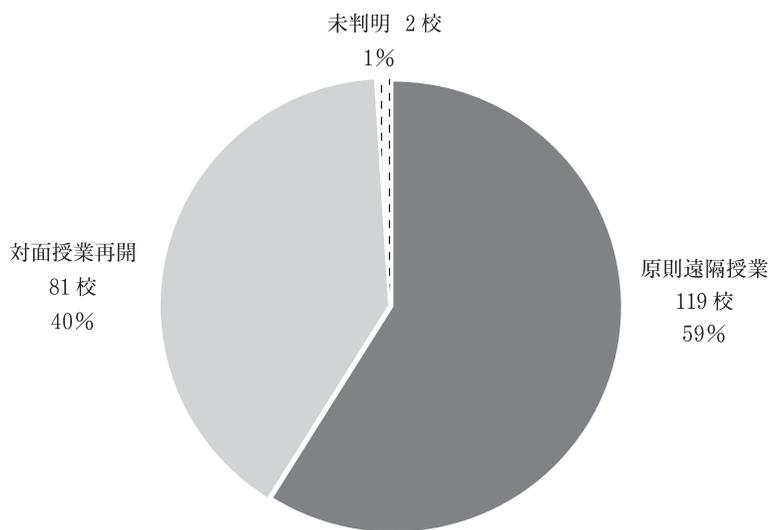


図2 前期授業の対応について（2020年4月20日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

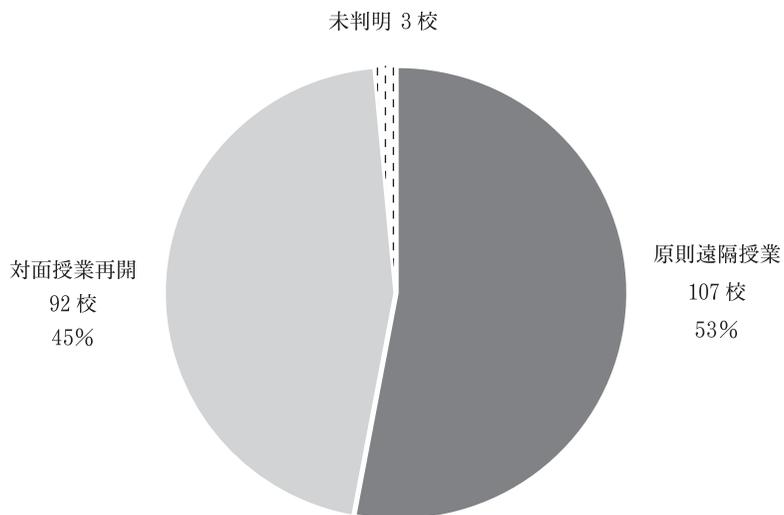


図3 前期授業の対応について（2020年6月2日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

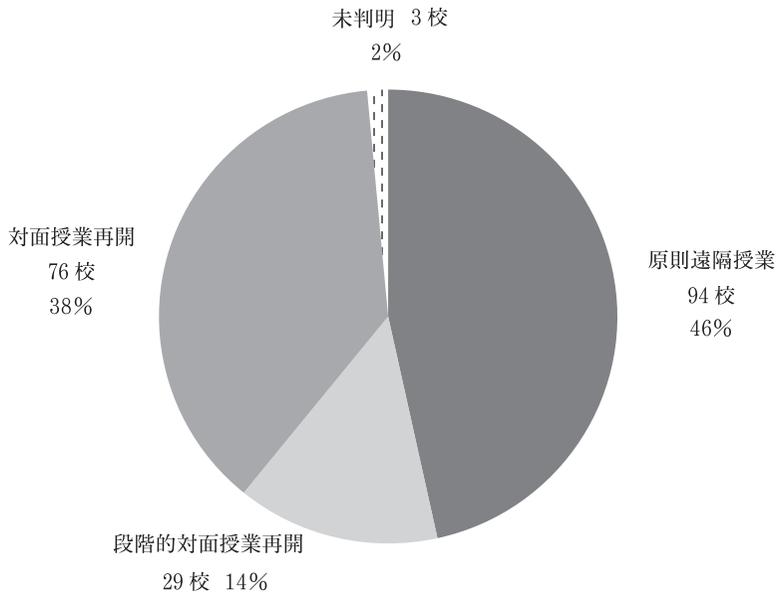


図4 前期授業の対応について（2020年7月1日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

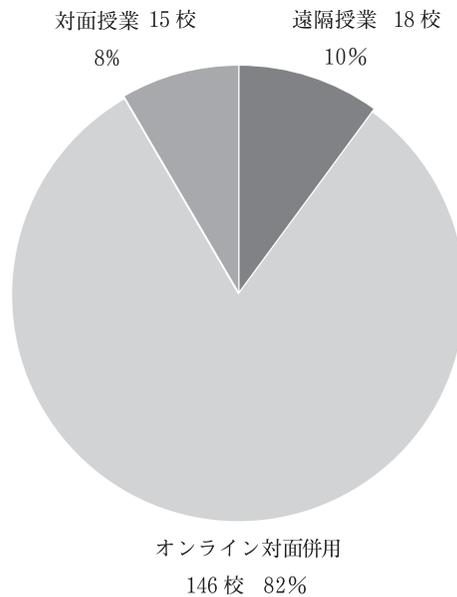


図5 授業の実施方法（2020年9月16日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

### 5.1.2. 課外活動への対応

課外活動（部活動）への対応だが、緊急事態宣言中は、72%の大学が課外活動（部活動）を中止していたことがわかる。

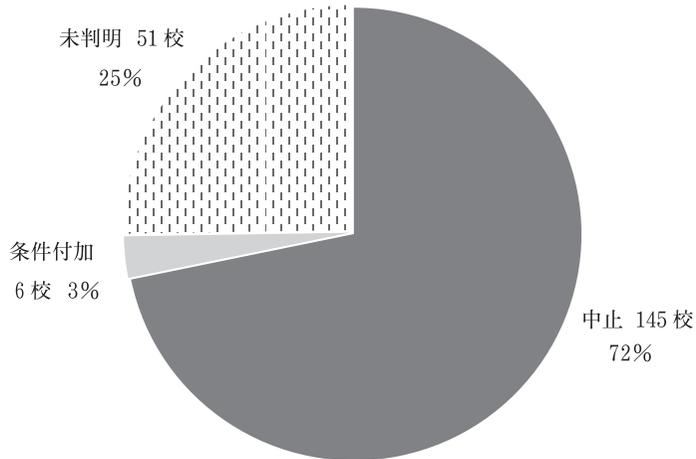


図6 課外活動への対応について（2020年4月20日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

緊急事態宣言の解除直後は、中止継続校が53%となり、段階的許可が30%となる。

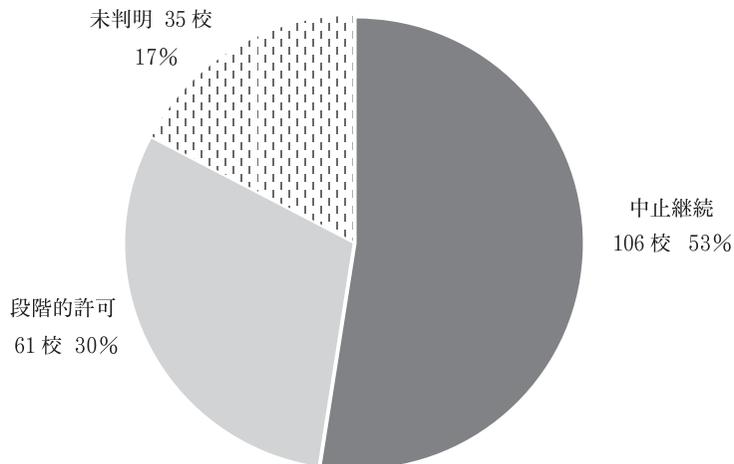


図7 課外活動への対応について（2020年6月2日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

緊急事態宣言が解除されて、新規感染者数が少なくなってきた7月1日時点では、中止継続は29%となり、段階的許可校を含めた活動再開した大学は、58%となり全体の6割近くとなったことがわかる。

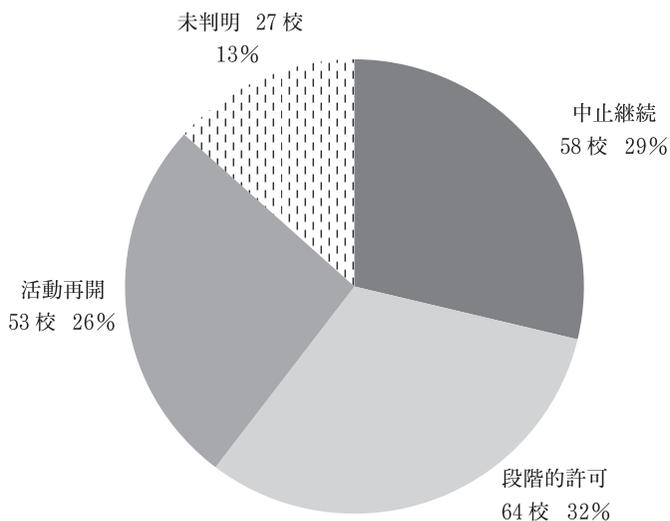


図8 課外活動への対応について（2020年7月1日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

後期授業開始時期の9月16日時点では、全部再開と一部再開を合わせて80%の大学で課外活動を再開している。

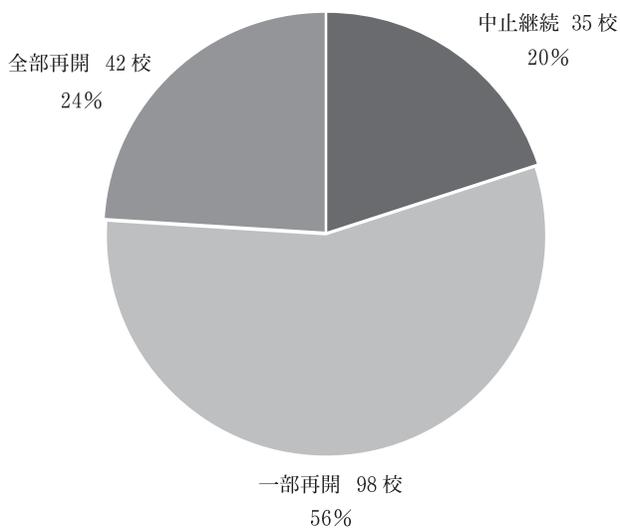


図9 課外活動の状況（2020年9月16日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

### 5.1.3. 地域別データ

関東の大学の43.8%は、第一波が終わり、新規感染者が少なくなった7月1日時点でも、課外活動（部活動）を中止していることがわかる。（図9）また、活動許可が出ている大学は、関東が39.1%と最も低く、関東の大学に影響が大きいことがわかる。

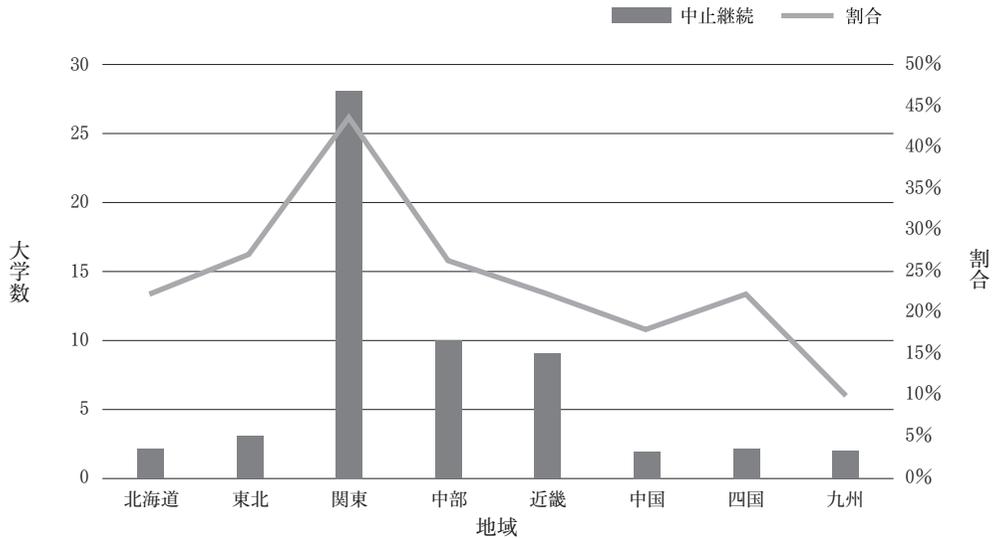


図10 地域別課外活動中止大学数と割合（2020年7月1日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

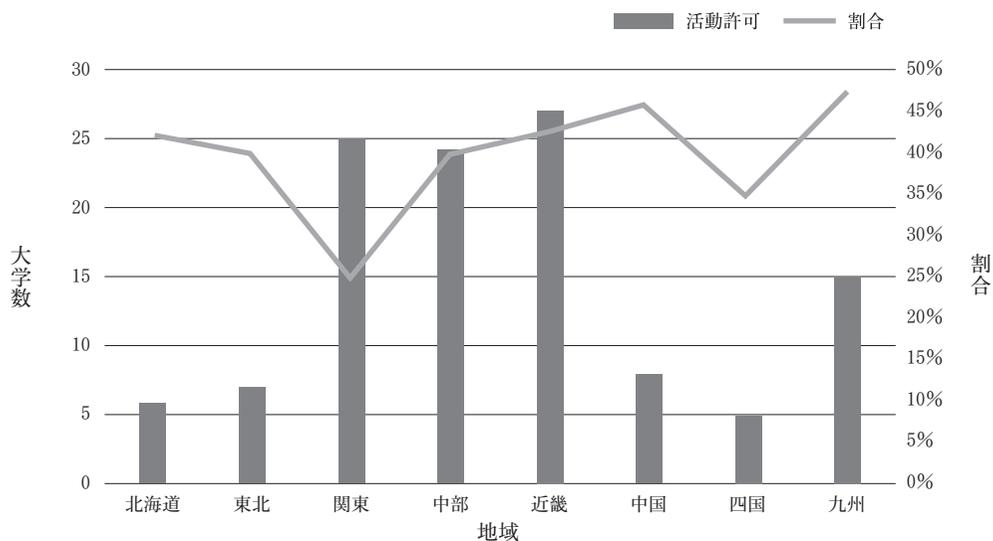


図11 地域別課外活動許可大学数と割合（2020年7月1日時点）

資料：UNIVAS 資料を基に筆者作成

## 5.2. 大学スポーツ試合開催状況

緊急事態宣言の発出により、全ての競技で春の公式戦は中止もしくは延期となった。歴史のある東京六大学野球リーグは、春の公式戦を夏に延期され、1回戦総当たり戦で9日間の短期集中開催にて実施された。また、秋開催は、通常は2勝することで勝ち点が与えられるが、2試合方式で開催された。東都大学野球リーグは、秋のリーグ戦のみ開催で自動昇格はあるが、入れ替え戦なしの降格はなしとなった。首都大学野球リーグは、秋のリーグ戦のみ開催をして、昇格降格ともになしとなった。

男子の関東大学サッカーリーグ戦は、通常ホームアンドアウェー方式だが、7月より全試合茨城県の大学での集中開催2回戦総当たりで行われている。自動昇格、自動降格制度は維持している。

陸上の関東インカレは、5月開催が10月に延期された。大学スポーツで最も注目を浴びている、男子駅伝は、出雲駅伝が中止、全日本大学駅伝は開催、箱根駅伝も開催の予定である。

表1に主要競技の開催状況と方式変更と昇降格の有無をまとめた。多くの競技が秋以降の開催となり、大会方式の変更をせざるを得ない状況となっている。

表1 大学主要スポーツ大会開催状況一覧

競技	公式戦	開催状況	方式変更	昇格	降格
野球	首都大学	秋季リーグ戦のみ	○	×	×
	東京六大学	夏秋開催	○	—	—
	東都大学	秋季リーグ戦のみ	○	○	×
男子サッカー	関東大学リーグ	茨城県集中開催	○	○	○
	埼玉県リーグ	1回戦総当たりのみ	○	○	×
男子バスケットボール	関東大学リーグ	秋開催のみ(代替え大会)	○	×	×
男子バレーボール	関東大学リーグ	秋開催のみ(代替え大会)	○	×	×
陸上	関東インカレ	日程変更			
駅伝	出雲駅伝	中止			
	全日本大学駅伝	実施			
	箱根駅伝	実施	予選会方式変更		
	全日本大学女子駅伝	実施			
	富士山女子駅伝	実施	選抜チーム出場せず		

### 5.3. 城西大学の対応

城西大学は、4月23日に「授業の進め方および前期授業等について」として、教室での授業を行わず、インターネットを利用したオンライン授業を行うことを決定し、全学生に通達した。これにより、実験系の授業はオンラインで開講し、スポーツ実技系の授業は非開講となった。

後期授業に関しては、少人数の授業は対面授業を推奨しながら、対面授業とオンライン授業を併用するハイブリッド授業を採用し、大人数の授業はオンライン授業を継続することとなった。

その上で、城西大学は、感染拡大の状況に注視をしながら、様々な対策を行った。表2は、城西大学が新型コロナウイルス感染症の対策として、課外活動を行っている学生や指導者に向けて出した発令の一覧である。1月16日に国内に新規感染者が発生した後（図1）、感染者が増えてきた2月から注意喚起またはお願いやお知らせを発令している。

表2 城西大学が課外活動に向けて発令したお知らせ

日付	主 題	発 令 元
2月21日	新型コロナウイルス予防に関する注意喚起	学生課
2月26日	合宿や集会等自粛（中止）のお願い	学 長
3月 3日	クラブ活動等の一部自粛のお願い	学生課
3月19日	体育施設使用禁止期間延長および教室使用禁止のお知らせ	学生課
3月26日	体育施設使用および教室使用禁止期間延長のお知らせ	学生課
4月 6日	課外活動活動停止について	学生部部长／スポーツ振興センター所長
5月 8日	課外活動団体の活動停止継続について	学生部部长／スポーツ振興センター所長
5月26日	緊急事態宣言後の課外活動について	学生部部长／スポーツ振興センター所長
5月29日	課外活動再開に伴う個々の意思尊重の徹底について	学生部部长／スポーツ振興センター所長
6月10日	総合体育館の一部施設再開について	学生部部长／スポーツ振興センター所長
6月26日	総合体育館の一部施設再開について（第3回）	学生部部长／スポーツ振興センター所長
8月 7日	課外活動における新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底について	学生部部长／スポーツ振興センター所長
8月 7日	練習試合、合同練習に関する他大学等の来校禁止について	学生部学生課
9月 5日	練習試合、合同練習に関する他大学等の来校禁止の解除について	学生部学生課

資料：城西大学ホームページより筆者作成

① 2月21日「新型コロナウイルス予防に関する注意喚起について」

1月31日に世界保健機関（WHO）が「国際的な公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」宣言した。日本国の厚生労働省は2/1から新型コロナウイルス感染症を指定感染症とすることを決めている。本学においては、「新型コロナウイルス（2019-nCoV）感染症対策本部を設置し、関連情報の収集と対策にあたることを決めた。この時点では、マスク着用の徹底や手洗い、うがい等通常の感染対策を行うことを通達している。

② 2月26日「合宿や集会等自粛（中止）のお願い」

3月中の合宿や集会などの開催を自粛（中止）することを通達した。これに伴い、キャンセル料が発生する場合は、学生課に相談の上、大学負担でキャンセルを促し安全確保を徹底した。

③ 3月3日「クラブ活動等の一部自粛のお願い」

厚生労働省が発表した「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」を受けて城西大学では以下の対応を実施した。

●使用禁止施設

総合体育館（体育館アリーナ、ホワイエ、格技室1～8、弓道場、プール、トレーニング室、多目的室A、多目的室B、体育館講義室等）

学生ホール、屋外トレーニング室、清光ホール

●使用禁止期間

2020年3月4日～2020年3月22日

この時点では、屋外施設での活動は禁止されていない。また、練習試合や学外者との練習は可能な限り自粛としている。

④ 3月19日「体育施設使用禁止期間延長および教室使用禁止のお知らせ」

3月3日に通達した内容を3月31日まで延長することを通達した。また、同時に4、5月の合宿を計画しないようお願いをしている。

⑤ 3月26日「体育施設使用および教室使用禁止期間延長のお知らせ」

前期授業開始日が、4月6日から2週間延期をして、4月20日の開始となったことにより、総合体育館等の使用禁止期間を更に延長することとした。この時点では、使用禁止期間を設けず再開日未定とした。

## ⑥ 4月6日「課外活動団体の活動停止について」

緊急事態宣言が発出される可能性が高くなり、発出される前日に全ての課外活動の停止に踏み切った。活動再開時期は未定として、国内状況や政府発表を参考にして検討するとした。

## ⑦ 5月8日「課外活動団体の活動停止継続について」

4月7日に発出された緊急事態宣言の延長により、課外活動停止の継続を通達した。

## ⑧ 5月26日「緊急事態宣言解除後の課外活動について」

5月25日全都道府県において緊急事態宣言が解除されたことにより、段階的に課外活動を実施することを通達した。

## ・第1段階：屋外での課外活動の再開（6月1日より予定）

屋外施設の使用禁止を解除し、屋外での課外活動の再開を行います。但し感染のリスクを考慮し、一度に行う人数の分散や活動時間の短縮など対策をお願いいたします。

## ・第2段階：屋内施設の使用禁止の解除（6月1日より2週間から1ヶ月程度経過をめぐに）

総合体育館施設および教室等の一部使用禁止の解除を段階的に進め、屋内での課外活動再開を目指していきたいと考えております。活動再開の際は、第一段階と同じく一度に行う人数の分散や活動時間の短縮など対策をお願いいたします。

## ・第3段階：全ての施設および活動制限の解除（全学的な対面授業の再開をめぐに）

段階的に対面授業が行われる可能性はございますが、基準としては全学的な対面授業の再開等をめぐに、通常の課外活動に移行したいと考えております。時期に関しましては、後期以降になる可能性がございます。

## ⑨ 5月29日「課外活動再開に伴う個々の意思尊重の徹底について」

活動再開に向けて、保護者や学生より活動参加に対しての不安の声が大学に寄せられたことから、改めて課外活動の責任者へ、学生の課外活動参加は学生および保護者の方の意思を最優先とし、「強制参加」や「参加しない学生が不当な扱いがなされることが無い」よう改めて徹底するよう通達した。

## ⑩ 6月10日「総合体育館の一部施設再開について」

6月15日より総合体育館施設の一部利用を再開した。

## ・解除施設

体育館アリーナ、室内プール、弓道場、剣道場、屋外トレーニング室

・使用禁止継続施設

格技室 1～7, 学生ホール, 多目的室 A・B, 清光ホール, 各教室

⑪ 6月26日「総合体育館の一部施設再開について（第3回）」

7月1日より総合体育館の一部施設利用を再開することとした。

・解除施設

格技室 3, 格技室 4, 格技室 5, 格技室 6, 格技室 7

・使用禁止継続施設

格技室 1～2 学生ホール, 多目的室 A, B 清光ホール, 各教室

⑫ 8月7日「課外活動における新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底について」

8月2日にサッカー部が練習試合を立正大学と実施した後、立正大学の選手が新型コロナウイルスに感染していたことが判明をして、当日参加していた学生及び監督39名が濃厚接触者として、PCR検査を受けた。また、8月16日まで活動自粛となったことが、課外活動の部長や指導者に通達され、感染拡大防止の徹底が促された。

⑬ 8月7日「練習試合、合同練習に関する他大学等の来校禁止について」

⑫で述べたことにより、他大学の来校禁止が通達された。この時点では、8月末までを期間とした。

⑭ 9月5日「練習試合、合同練習に関する他大学等の来校禁止の解除について」

他大学等の来校禁止を解除した。

## 6. 考 察

城西大学が課外活動を全面中止としたのは、4月6日である。およそこの時点の全国大学では72%が課外活動を中止としている。城西大学は、4月7日緊急事態宣言発出前日より活動中止を発令して、全国の大学の多くと同様の措置を取ったことが理解できる。

また、前期授業は完全オンライン授業であったが、全国の大学では、オンライン授業を実施していた大学は、4月20日時点で59%、6月2日時点で53%、7月1日時点で46%となっている。前期途中で、対面授業に変更した大学がある中で、城西大学は前期オンライン授業を通じた。

城西大学が課外活動の一部再開をしたのが、6月1日からである。この時点で、中止継続校が

53%で段階的許可が30%となっている。城西大学は、段階的許可の30%の中の一校である。緊急事態宣言が全国では5月25日に解除となり、城西大学は屋外競技においては、活動再開を許可した。中止継続が53%ある中で、活動を許可したことはスポーツ活動に理解があると言える。

城西大学が、課外活動を全面再開したのは、6月26日である。この時点での全国の大学で中止継続は29%であった。活動再開が26%、段階的許可校32%を含めた活動再開した大学は58%となり全体の6割近くとなった。城西大学は、活動再開の26%の一校である。全国の中でも比較的早く再開したことが理解できる。ここでも、城西大学が全国の大学の中でも、スポーツ活動に前向きであることが理解できる。

城西大学における課外活動（部活動）の中断期間は8週間に及んだが、その間は、他大学の課外活動（部活動）は、未判明が25%、条件付加3%、中止が72%となっており（図6）、ほとんどの大学が活動をできずにいた。この間に日頃のストレスを解消したかどうかは証明できないが、大学がコロナ禍において適切な判断及び発令を出すことで、運動部の指導者及び学生に与えるストレスを極力抑えることに繋がったのではないかと推測する。

後期授業開始時点において、城西大学の課外活動は全面的に認められており、全国の大学において、全部再開24%のうちの一校である。一部再開が56%で全部再開含むと80%の大学が活動を再開しているが、全部再開の割合からも、城西大学のスポーツ活動への理解度が窺える。

## 7. まとめ

城西大学では、新型コロナウイルス感染拡大の中で、世の中の状況を把握しながら、対策を講じてきた。その結果、本論文を提出した2020年12月7日時点で運動部員の感染者は出ていない。硬式野球部、男子駅伝部、女子駅伝部は全部員が寮生活、女子ソフトボール部は一部が寮生活を送っており、一人でも感染者が出るとクラスターが発生する可能性を秘めている。その中で、感染者を一人も出していないことは、単に運が良かったのではなく、世間の状況を把握しつつ対策を講じてきたことによる必然と考える。

後期授業開始後、対面授業を再開したが、オンライン授業を選択することが可能なため、対面授業に参加せず、対面授業にオンラインで参加するハイブリッド授業を選択している学生も少なくない。運動部活動は、自らの意思で行っているが、学生は様々な環境で生活しているため、運動部活動の参加をためらう学生が存在する。そのことを考慮して、主に指導者向けに、「課外活動再開に伴う個々の意思尊重の徹底について」を発令した。保護者や学生より活動参加に対しての不安の声が大学に寄せられたこともあり、学生の課外活動参加は学生および保護者の方の意思を最優先とし、「強制参加」や「参加しない学生が不当な扱いがなされることが無い」よう改め

で徹底した。このこともあり、大きなトラブルも発生せず部活動は運営されている。

そして、2020年度城西大学運動部活動競技成績は良い結果が出ている。硬式野球部は、2020首都大学野球2部秋季リーグ戦を実に15季ぶり（14回目）に優勝を果たした。女子ソフトボール部は、全国大学選抜女子ソフトボール選手権大会で3位入賞と史上最高の結果である。男子駅伝部は、箱根駅伝予選会で3位となりに2年ぶり16回目の本選出場を決めた。女子駅伝部は、全日本大学女子駅伝対校選手権大会総合7位。男子陸上部は、インカレ100mで1位水久保漱至君、3位鈴木涼太君。200mでは1位水久保漱至君、2位鈴木涼太君と快挙を成し遂げた。鈴木涼太君は、オープン大会の日本選手権で200m3位となり陸上界では城西大学の活躍は大きなニュースとなった。サッカー部は、今年度から設立したフットサル部門（5人制サッカー）で、全日本フットサル選手権大会埼玉県大会で大学生として初の優勝を果たした。他大学に比べて活動再開を早くすることで、運動機能（学生の身体機能）の低下を最低限に抑えることができたのではないかと考える。

2020年12月7日現在で、部活動内で新型コロナウイルス感染者を一人も出さないことで、安心して部活動を行うことができたことは、城西大学の組織対応として非常に大きな成果である。理由として、組織として世の中の状況に応じて、適切な対応を取り、各部活動責任者の学生への指導と学生の意識の高さが要因だと考える。今後のコロナ禍においてはもちろんのこと、また別の感染症が発生したとしても、今回の対応の良かった点と課題点を顧みて対応することで、大学の名誉と学生及び教職員の健康を守ることに繋がるのではないだろうか。

課題点としては、8月上旬にサッカー部が他大学と練習試合を行った直後に、対戦相手の学生が新規感染したことが判明して、39名がPCR検査を受けた。その後、対戦相手大学内には数名の感染者が出るいわゆるクラスターが発生した。当日正門で全員の検温を実施したが高熱者は露見できなかった。対外試合の相手に、2週間分の検温データを求める等、より厳しい対策が必要だ。

また、今後部活動内で感染者を出さず、集団感染を起こさせないためには、日頃の世間一般の感染予防は当然のこととして、送別会や歓迎会等飲食を伴う会合禁止の徹底、プレー時以外でのマスク装着徹底、オンラインによるミーティングの徹底、部活動以外での行動（アルバイト時等）での注意徹底を促すことが必要だと考える。

#### 参考文献

- 杉田文章（2016）「大学スポーツをめぐる諸課題に関する考察」経営・情報研究：多摩大学研究紀要（20），157-60
- 中澤篤史（2020）「新型コロナウイルスと選抜高校野球大会：運動部活動が応援され続けるために」『体育の科学』70巻6月号，398-403 杏林書院

- 山本順之 (2009) 「大学におけるスポーツの役割に関する研究 — 大学スポーツの変遷と発展」『社会文化研究所紀要』九州国際大学, 64 巻, 81-99
- Jukic, I., et. al (2020) Strategies and Solutions for Team Sports Athletes in Isolation due to COVID-19, Sports 2020, 8(4), 56, 1-9
- 一般財団法人関東大学サッカー連盟, <https://www.jufa-kanto.jp/> (2020.12.3 閲覧)
- 一般社団法人関東大学バスケットボール連盟  
<https://www.kcbbf.jp/game/index/type/league> (2020.12.3 閲覧)
- 一般財団法人関東大学バレーボール連盟  
<http://kanto.volleyball-u.jp/> (2020.12.3 閲覧)
- 一般社団法人大学スポーツ協会 (2020) 加盟大学におけるコロナウィルス感染防止対応の現状調査について: <https://www.univas.jp/article/13488/> (第2回4月20日時点:4月16日緊急事態宣言が全国に発出されたことを受けた対応状況/第3回6月2日時点:5月25日全国47都道府県において緊急事態宣言が解除されたことを受けた対応状況/第4回7月1日時点:地区別の感染状況を踏まえた地区別の対応の状況/第5回9月16日時点:地区別対応状況の進展と後期に向けた対応の状況)
- 一般社団法人東京六大学野球連盟  
<https://www.big6.gr.jp/index.php> (2020.12.3 閲覧)
- 一般社団法人東都大学野球連盟  
<http://www.tohto-bbl.com/> (2020.12.3 閲覧)
- 厚生労働省, 新型コロナウイルス感染症について, オープンデータ; <https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html> (2020.11.15 閲覧)
- 首都大学野球連盟  
<http://tmubl.jp/> (2020.12.3 閲覧)
- 城西大学ホームページ  
<https://www.josai.ac.jp/news-list/index.html> (2020.11.15 閲覧)
- 富士山女子駅伝ホームページ  
<https://www.fujisan-joshiekiden.jp/> (2020.12.3 閲覧)
- 立正大浜南高校ホームページ  
<http://www.shonangakuen-h.ed.jp/news/688> (2021.1.18 閲覧)
- 中央大学ホームページ  
<https://www.chuo-u.ac.jp/news/2020/11/51839/> (2021.1.18 閲覧)

# The Impact of COVID-19 Pandemic on University Sports in Japan and Josai University's Response

Tatsuya Sasaki

## Abstract

In 2020, universities were required to close and on-campus classes were suspended as the state of emergency was declared by the Japanese government due to the COVID-19 pandemic. The management of extracurricular activities -club activities- was also confronted with difficulties as a matter of course.

In this paper, the author firstly analyze the UNIVAS survey data which reveal the impact of university sports activity suspension in stages. Secondly, by selecting major sports, current status of official university sports games is clarified. Lastly, the author refers Josai University's countermeasures against the pandemic.

The impingement on college sports has been immeasurable, and Josai University has been greatly affected as well. However, compared to other universities, Josai was able to take best appropriate measures, including minimizing the period of suspension of club activities, which consequently led to good results in major club activities.

One issue that needs to be addressed is how to manage anti Covid-19 measures for external games against other school teams, and it is important to keep continuous thorough infection prevention.

**Keywords:** COVID-19, University Sports, Josai University